

三菱電機／自動車向け「簡単操作インターフェイス」

使いやすさを追求

便利なカーナビが
もっと便利に

先の「CEATEC JAPAN2014」三菱電機ブースで紹介されていた「自動車向け『簡単操作インターフェイス』」は、すでに便利なカーナビをさらに、いや劇的に向上させる開発であり、個人的に最も関心をひかれた内容のひとつだ。

最大の特長は、操作履歴や運転履歴をもとにドライバーが実行したい操作を推定し、三択形式で提案してくる「先回りエージェント」。カーナビの本義である目的地設定はもちろん、オーディオ操作やエアコン操作などについても先回りで提案、手元のボタンで決定できる。

デモ展示時の状況を含めた具体例を紹介すると、例えば日曜日、朝6時にゴルフ場を目的地として自動車を走らせたとする。すると翌週の同じ時間、エンジンを起動した時点で「ゴルフ場」が行き先候補に挙げられてくる。これが数週間続き、かつ異なるゴルフ場にも足を運んでいた場合、それぞれの地点が候補として挙がってくる、というわけだ。

またゴルフ場に向かう際、習慣として「コンビニに寄る」「友人をピックアップする」などの行動が続いていた場合、それら経由地についても候補として挙がってくる。さらに友人を迎えに行く前に到着予告の電話を入れていた場合は、電話を入れるという行動すら提案してくれる。

三択提案などの表示ディスプレイはヘッドアップ型、つまり目線の先に表示される。よって、従来のようにナビ画面そのものを確認しながら操作する必要はなく、進行方向から視線を切る必要もない。これにより、複雑なナビ操作と安全運転を両立させている。

また三択に選択肢がない場合は、音声入力によって別の選択を呼び出すことも可能。実行したい機能ボタンを長押し→音声ガイダンスに従って実行したい操作を音声入力という流れで回

カーナビゲーションシステムは、運転者にとって極めて便利な情報機器である。その便利さゆえ、使えば使うほど依存度が増し、果ては「カーナビなしでは運転できない」ほどの信頼を寄せるようになる。そうして頼り切っているがゆえか、その操作性については特に疑問視していなかったが……。



三菱電機「自動車向け簡単操作インターフェイス」。
三択表示は視線の先に、操作は手元のボタンで行う

答が絞り込まれるため、入力ミスも起こりにくい仕組みだ。

使いやすさの追求が良い方向に

「車載のナビを含めた情報機器の操作が複雑化する中で、劇的に簡単にすることをテーマに掲げました」（三菱電機デザイン研究所インターフェイスデザイン部インターフェイス第1グループ専任・相川真実氏）という基本コンセプトは、全体を通じて良い方向に働いている印象だ。

音声入力を用いてはいるが、三択提案になった場合のサポート。操作ボタンも物理ボタンであり、近年主流のタッチパネルではない。「操作を簡単に」というテーマに掲げた結果として、先端的なインターフェイスを用いること「ありき」にならず、あくまで使いやすさを追求した上で方法論やデバイスを選択していった様子が見てとれる。

走行中に操作できるほど複雑な操作が簡略化されている点も重要だ。「方向指示機（ウインカ

ー）を操作する程度の感覚で」（松原勉グループマネージャー）という表現を大げさに感じないほど、目的とする操作を確定させるまでの手順が少ない。

あくまで個人的な経験だが「目的地設定を忘れて発進」というミスはよくある。それも自宅を出発するときではなく、見知らぬ街を出発するときに限って、だ。清算後に出庫するコイン駐車場は気持ち的な焦りが出る、などが主な要因で、現状は信号で止まるのを待つか、適当な所に停車するしかない。

そんなミスが起こっても安心、というこの次世代カーナビはある意味、巷で話題の衝突防止機能よりも魅力的だ。案の定(?)、展示会での評価は開発者本人たちも驚くほど好評だったとか。

「作る側としては、技術的な意味での目新しさがない分、良さが伝わるかどうか不安があった」（相川氏）というが、「使いやすさへの追求」ニーズがメーカー側の考えている以上に高い、という事実の現れかもしれない。なお、商用化も検討されており、今から実践投入が待ち遠しい。